



あなたは我慢できますか

災害時の2,3時間待ちのトイレの行列に

～女性の視点で災害時のトイレを考える～

特定非営利活動法人 ふくてっく
大阪市男女共同参画社会をめざすグループ活動支援事業

はじめに

新潟地震での「トイレの行列は長く、2・3時間待ちの状態」との新聞記事に、女性の多く、特に高齢女性は悲壮感を抱いたのではないのでしょうか。女性にとってトイレを我慢することは、あからさまに表現できない羞恥心と相まって、その精神的苦痛は、男性には理解できないことかもしれません。このような思いが胸の内にくすぶっていたこともあって、2004年11月にATCエイジレスセンターでふくてつくが主催した「トイレのすべて展」での「トイレシンポジウム」のなかで、会員のお母さんが、トイレを我慢したことが原因で震災後亡くなられたことをお聞きし、女性のために考えねばならない問題だと痛感し、今回の調査研究に取り組みました。

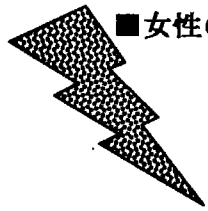
トイレを我慢するために、1日中水を飲まず、食事も控える女性。その結果、身体的にも精神的にも大きなダメージをうけ、その後の生活に支障が出た人も多かったようです。震災後3カ月以内に亡くなった人5470人の内、女性が男性より1000人以上多かったという数字からも推測できます。調査するにつれ、セクハラやレイプの問題も浮かび上がり、災害弱者としての少女や女性に対する暴力にやりきれない気持ちにもなりました。

このように、女性にとって病気やストレスを引き起こすほど重要な問題にも関わらず、防災対策のなかにトイレ問題を組み込んだ自治体はわずか19.6%で、女性に対する配慮も見られません。

女性が安心して使用できるトイレ環境を考えることは、女性の健康維持にも役立ち、災害時といえども女性が元気になれば社会も生き生きするでしょうし、真の男女共同参画社会を創りあげることににもなるのではないのでしょうか。

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1、調査研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2、調査研究の背景・・・・・・・・・・・・・・・・	4
①高齢女性と災害弱者	
・男性より1000人多い女性死亡者数	
・高齢者の身体・心理特性からみたトイレ問題	
②災害時の仮設トイレは怖い	
阪神淡路大震災・中越地震・インド洋大津波の報告から	
<ヒアリング調査>	
3、大阪市の防災対策の中のトイレ・・・・・・・・	11
<参考>神戸市・東京都	
<アンケート調査>	
4、女性のトイレ意識・・・・・・・・・・・・・・・・	13
<調査研究結果から>	
5、地方自治体や地域への提案	
女性にとっての快適トイレ環境・・・・・・・・	17
6、資料 調査票・・・・・・・・・・・・・・・・	18



1、調査研究の概要

<目的>

昔から「災害は忘れた頃にやってくる」と言われましたが、このところ、地震、津波、ハリケーンなど次々と起こる災害に、いつわが身に・・・と不安な今日この頃です。災害時はともすれば健常者対策に追われ、障害者や高齢者などの弱者はなおざりにされてきました。少子高齢化の時代だからこそ、高齢者の視点でも考える必要があるのではないのでしょうか。特に慎重な高齢女性にとって災害時のトイレ事情は、死にもつながる深刻な問題といえます。どうして女性は自分の身体をこわしてまで、トイレを我慢しなければならないのか、災害時の実態や高齢者の特性、女性の意識調査から探っていき、災害時であっても、女性が安心して使用できるトイレ環境を提案します。

<方法>

①資料収集による調査

- ・ 災害時の実態を知るため、震災に関する新聞記事、雑誌、出版本、テレビなど莫大な資料からトイレ関係を抜粋しました。

②ヒヤリング調査

- ・ 大阪市の防災対策を大阪市危機管理室で聞き取り、広域避難場所である鶴見緑地公園に実際に設置してもらった仮設トイレについて説明を聞きました。また、アベノ防災センターで備蓄のポータブルトイレを見せてもらいました。

③アンケート調査

災害時のトイレについて、女性はどのように考えているか、大阪市が備蓄している災害用ポータブルトイレを借り、大阪南港にあるATCエイジレスセンターに展示、市民の意識を調査をしました。



■女性の視点で災害時のトイレを考える

2、調査研究の背景

①高齢女性と災害弱者

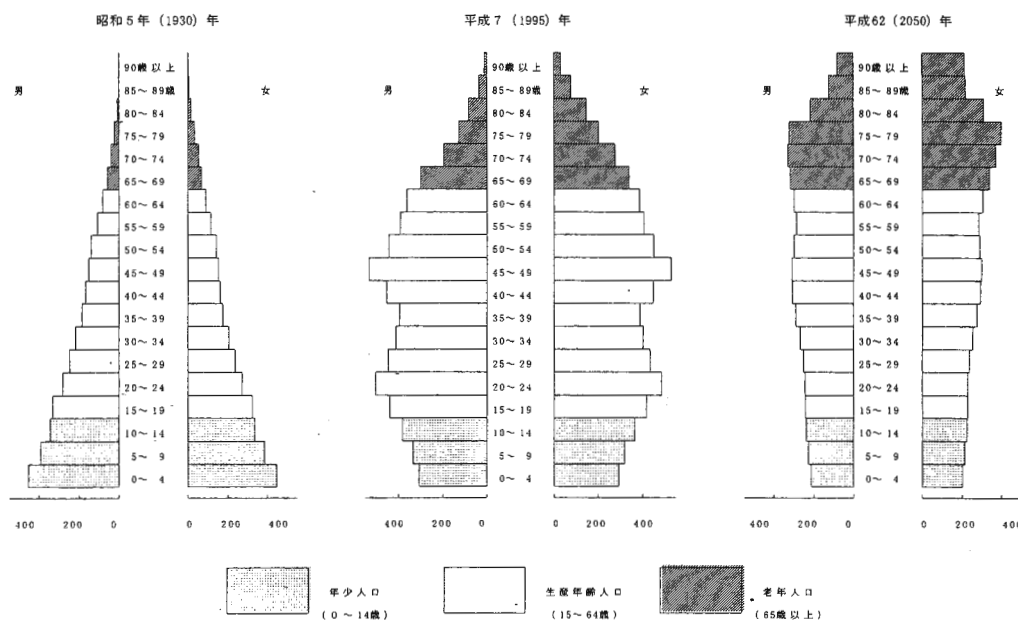
・男性より1000人多い女性死亡者数

少子高齢化による高齢者の増加はとどまるところを知らず、いまや5人に1人が65歳以上、やがて4人に1人が高齢者という時代が遠からずやってきます。特に、女性の寿命は年々伸び、男性に比べ5歳以上長生きしますから、ますます高齢女性の数はますます増えていきます。(図1参照) その上、1人暮らしの高齢者の3分の2が女性です。(図2参照) このような背景から、震災後30日間の女性の犠牲者数は男性より1000人以上多く、そのほとんどが高齢女性だったこともうなずけます。

(図3参照)

元気な高齢者であっても、身体のあちこちが少しずつ老化していきます。女性の場合、特に生理的機能である循環機能、腎機能の低下は著しく、災害という大きな現象に、速やかに対応できず災害弱者となってしまうます。高齢者の身体的、心理的特性を理解した上で、高齢女性に優しい防災対策が必要です。

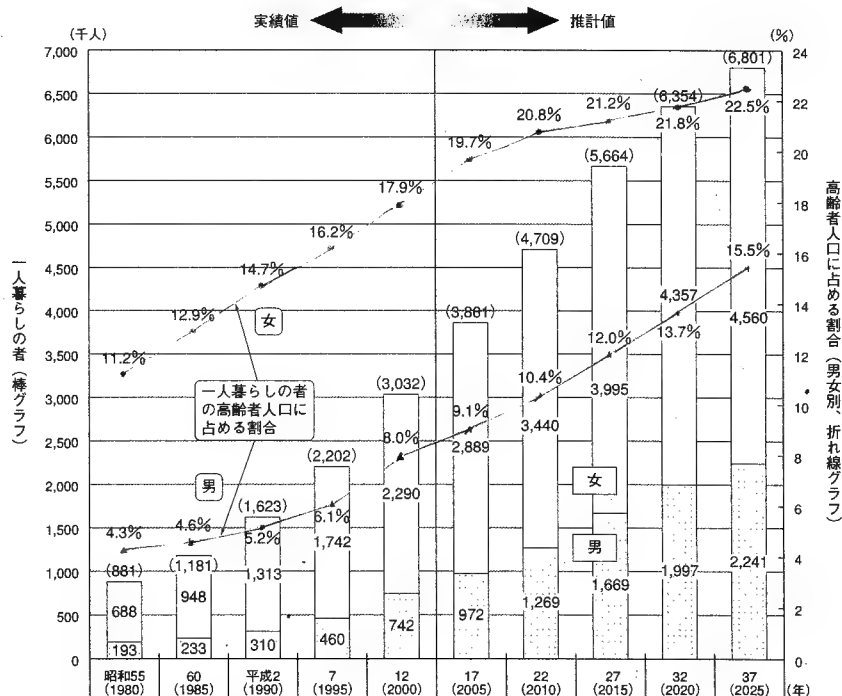
図1 人口ピラミッド(男女、年齢階級別)の推移



資料：総務庁統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成9年1月推計)

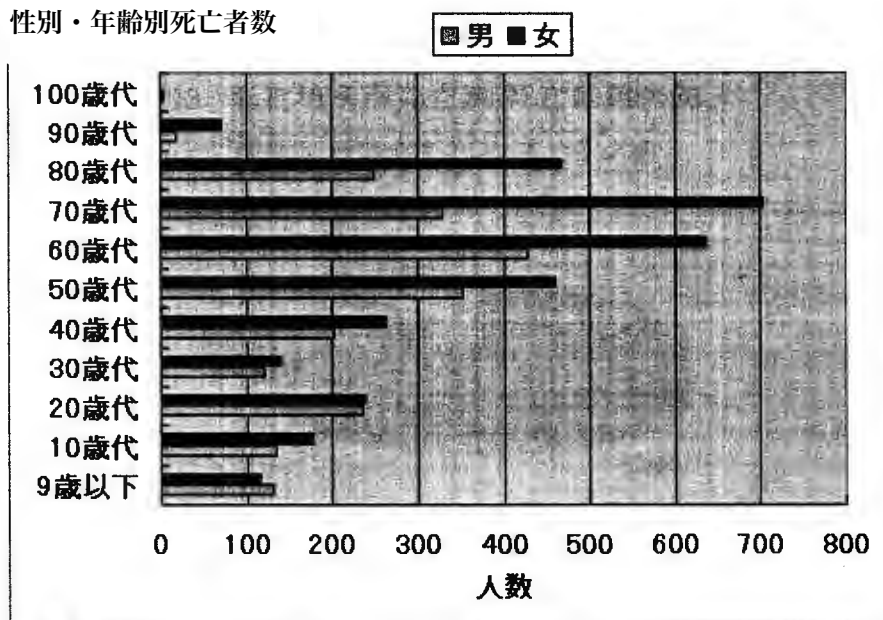
図2

一人暮らしの高齢者の動向



資料：平成12年までは総務省「国勢調査」、平成17年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(平成15(2003)年10月推計)」、
「日本の将来推計人口(平成14(2002)年1月推計)」
(注1)「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」のことを指す。
(注2) 棒グラフ上の()内は65歳以上の一人暮らし高齢者の男女計

図3 性別・年齢別死亡者数



【参考】高齢者の婦人が多く犠牲になっている。20歳代の死者が多いのは被災地に大学が集中していたことによるものと考えられる。

・高齢者の身体・心理特性からみたトイレ問題①

	機能特性	バリアの要因	トイレの配慮
身体的特性	・ 身体寸法が減少する（20歳代に比較して15%前後70歳から80歳までの10年間で約2~3%の減少） ・ 骨量の減少、関節の変形により、腰が曲がり、身体が硬直する ・ 骨がもろく骨折しやすい（70歳以上の90%がカルシウムの減少による骨粗鬆症が見られる） ・ 筋肉の総量が減少（70歳で30歳代時の約半分）するため握力や指、腕その他の筋力が低下する ・ 持久力の低下（72歳で12歳程度） ・ 敏捷性、平衡性の低下 ・ 動作を始める反応時間が低下する ・ 柔軟性の低下。肘、膝、股関節の動きが悪くなる ・ 脚力の低下（若年時より70歳代で約48~55%低下）により、つま先、かかとの上がりが低くなる	・ 高い所に手が届かない ・ しゃがんだり、立ったりの動作が苦痛になる ・ 立位姿勢の保持が困難になる ・ 転びやすい ・ 日常生活動作がスムーズにいかなくなる ・ しっかりと握れない ・ 握ったり引いたりしにくい ・ 重いものが持ちづらく疲れやすい ・ 瞬時に反応することができない ・ 動作が緩慢になる ・ 歩幅は狭く、すり足歩行になり転倒しやすくなる	・ 荷物掛けフックの高さは最高155cm ・ 和式便器での動作がしにくい ・ 行列などで立っているのが苦痛 ・ 段差をなくす ・ ドアの手すりや手すりの形を握りやすく、掴みやすく ・ 水汲みバケツの大きさ、持ち手の形 ・ ゆっくりの動作 ・ トイレ内での時間が長い ・ 段差をなくす ・ 1cmでもつまづく

・高齢者の身体・心理特性からみたトイレ問題②

	機能特性	バリアの要因	配慮
生理的特性	・循環機能が低下し全身への酸素、栄養などの供給が低下する（心臓パワーは70歳台で30歳時に比べ約30%程度低下する） ・胸部の変形や呼吸筋の劣化などにより肺活量、換気量などが減少し、酸素の摂取量やガス交換量が低下するなど呼吸機能が低下する ・消化機能も腸の蠕動運動が低下する ・腎機能が低下する ・腎血流量（20歳台に比べ約25%）の減少や膀胱の容積も縮小する ・睡眠時間が短縮する（レム睡眠時間は幼児並みの1時間程度になる）	・疲れやすくなる ・喫煙、排気ガス、ほこり、ちりなどの吸引により病的老化を起こしやすくなる ・便秘や下痢になる ・頻尿、残尿感がある ・膀胱炎・尿道炎・カンジタ症・になりやすい ・トイレに行きたくて目がさえて眠れない	・トイレを我慢すると血栓ができやすく、心筋梗塞・脳梗塞になる ・水分の補給をする ・トイレの温度を考える ・部屋の換気 ・ちりやほこりの除去 ・ゆっくりトイレに入っておれる環境 ・トイレを近くに ・トイレの操作を簡単に ・清拭するためのウェットティッシュ等の設置 ・夜中でもいける安全なトイレ
感覚的特性	・視力、視野、ピント調整力の低下や網膜の感度が落ちるため暗順応力などが低下 ・白内障の進行に伴い色識別力が低下する ・下方向の視野が狭くなる ・聴覚は加齢とともに劣化する高周波（高い声）から低周波（低い声）へと広がる老人性難聴になりやすい	・小さい文字が読み難くなる ・照明の暗い所では字が見にくくなる ・色の判別がし難くなる ・足元が見にくくなる ・高い話声が聞き取りにくくなる ・背景の騒音が気になる	・判りやすい大きな文字で表示・トビラの鍵等見やすく分かりやすく ・照度を上げる ・明度差の大きい色彩にする ・類似色配色は避ける ・トイレの位置を人に聞かなくてもわかるようにする

・高齢者の身体・心理特性からみたトイレ問題③

	機能特性	バリアの要因	配慮
感覚的 特性	・ 鼻細胞、鼻神経、鼻粘膜の感覚細胞の脱落などの劣化により臭覚が低下する ・ 味覚を知覚する神経細胞の数が加齢とともに半減したり、その他の要因により味覚機能が低下する ・ 加齢に伴い皮膚からの情報を脳へ伝える経路の変性や大脳の感覚中核変性などを起こす	・ 悪臭が感じにくくなる ・ 口の中が不潔になりやすい ・ かゆみに悩む ・ 痛さ、冷たさ、暖かさ、暑さ、寒さを感じるのが鈍くなる	・ トイレ内で衣類が汚れない配慮 ・ 口の中を清潔にするための洗面台の設置 ・ 身体をまめに拭けるスペースの確保
心理的 特性	・ 年寄りにみられるのを嫌う ・ 物忘れしやすい ・ 新しい学習への意欲が薄らぐ ・ 生に対する執着と、死を迎えたいという心理が交錯する。	・ 外見をカバーする ・ 一度ぐらい見たり、聞いたりでは覚ええない ・ 新しい方法や仕組みが理解できない ・ 鬱と躁が交互にやってくる	・ トイレに時間がかかると嫌な顔をされたり間に合わないで失敗すると恥ずかしいからトイレの行列を避ける ・ トイレ内備品の充実 ・ トイレの鍵の掛け方、開け方を見ただけでわかるようにする ・ 使いなれた方法（水道の蛇口、水洗の方法など） ・ トイレに思うように行けないことで精神の不安定を起こしやすい



■女性の視点で災害時のトイレを考える

②、災害時の仮設トイレは怖い

- ・ 阪神淡路大震災の記録から（日経大阪PR発行「阪神大震災トイレパニック」
- ・ 朝日新聞社刊「大地震サバイバルマニュアル」日本トイレ協会「トイレに関する支援のための調査報告書」サンケイリビング新聞社編「阪神大震災主婦115人の証言」大阪大学出版「阪神淡路大震災における避難所の研究」などから抜粋しました）

阪神淡路大震災で仮設トイレは

- ・ 校庭のすみっこなど遠く不便なところに設置されている
- ・ プライバシーが守れない
- ・ ぐらついて不安定、余震があればと思うと怖い
- ・ トイレトペーパーや荷物置き場所がない
- ・ 夜間照明がなく暗くて怖い
- ・ 使用者のシルエットが映る
- ・ 階段がづらい
- ・ 手すりが無い
- ・ 鍵がかからない
- ・ 風でテントがめくれる
- ・ 仮設トイレの組み立てが難しく1日かかった
- ・ 設置方法が不十分
- ・ 大便がテンコ盛りで足の置き場がない
- ・ 寒い
- ・ 便座が冷たくゾツとする
- ・ トイレトペーパーが床に置かれ汚れてつかえない。
- ・ すぐ詰まる
- ・ 男女一緒にいや
- ・ 仮設トイレがあまりにひどいので、トイレのために半壊の我が家へ行くと、廊下などあちこちに大便の山があった
- ・ 糞便が山盛りですぐ使えなくなる。
- ・ 男女混合トイレなので男性の視線を感じて恐ろしい。

災害時の生理

1月19日、20日の両日、「花王」は生理用ナプキン33万3000枚を被災地に送った。しかし、西宮の女性によると「1日用にと、ナプキン1個を手渡され呆然となった」という。日本衛生材料工業連合会では「昔は脱脂綿を使い、ゴム引きの防水加工ショーツで固定していたが、現在ではそんなショーツはあまり売っていない。ハンカチやティッシュで押さえてじっとしているしかないですね」とのこと。非常時の持ち出しに生理用ナプキンも考えるべきだ。

・中越地震でのトイレ（アジア女性資料センター刊「災害と女性」より）

- ・ 一時避難所で生活していたが、とても怖いと娘を連れて自分の実家へ戻ったTさん。お父さんは避難所でもみんないい人ばかりで助けあえると一人避難所生活。でも、着替えもお風呂もトイレも生理のときも、どんなに私も娘も怖い思いをしていたか、言わないからわかってもらえないのは仕方ないけれど、これ言えないですよ。（新潟市内の実家で生活のTさん）
- ・ 避難所では乳幼児を持つ母親が、授乳やおむつ交換に気を使った。
- ・ 水が流せず生理中の女性是对応に苦慮した。
- ・ 入浴中の男性は裸のまま飛び出したが、下着をつけて出てきなさいと声をかけられ、続いて起きた余震で家が倒壊してなくなった女子小学生もいた。（小千谷在住・避難所生活経験者Rさん）

インド洋沿岸津波での避難所とトイレ（アジア女性資料センター刊「災害と女性」より）

- ・ バンダアチェ市内にあるモスクの避難所では、避難民2000人に対して水浴場（兼トイレ）は3つしかない。それに水源（井戸）はたった一つ。避難所の水浴場（兼トイレ）は男女別々に作られておらず、女性に対する配慮はない。水浴場が避難所から遠いところにあると、夜はトイレにいけない。水浴場をのぞき見されるとか、時には暴力をうけることもあり、セクハラをするのは、同じ避難民の男性であったり、警備をしている兵士だったりする。避難民女性の多くが、セクハラを受けたことがあるそうだ。これでは昼間に集中するため、列ができるのは当然で、女性は安心して水浴びやトイレができない。（女性と津波被害・松野明久）
- ・ 12月26日の津波のあと、インド洋沿岸の被災地域を「第2波」が襲った。被災後にもたらされた栄養失調や病気、暴力などで、とくに女性と少女が被害者となった。津波は15万人もの人々の命を奪い、現在も500万人以上が浄水、食料、トイレなどの衛生施設、寝る場所をえられないでいる。そのうち少なくとも15万人は女性である。現在被災地の多くの女性たちが抱えているのは健康、衛生状態の問題である。被災したコミュニティで財産を失った女性たちは、公の場にでていく時に着る服さえない。生理用品などの衛生用品がないので、女性たちは尊厳を傷つけられ、自由な移動も制限されてしまう。



■女性の視点で災害時のトイレを考える

<ヒアリング調査>

3、地方自治体の防災対策の中のトイレ

大阪市の防災対策とトイレ

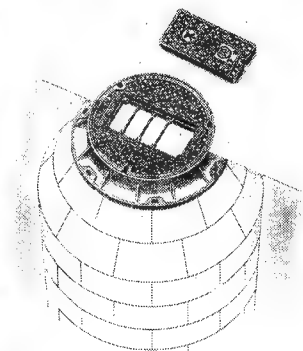
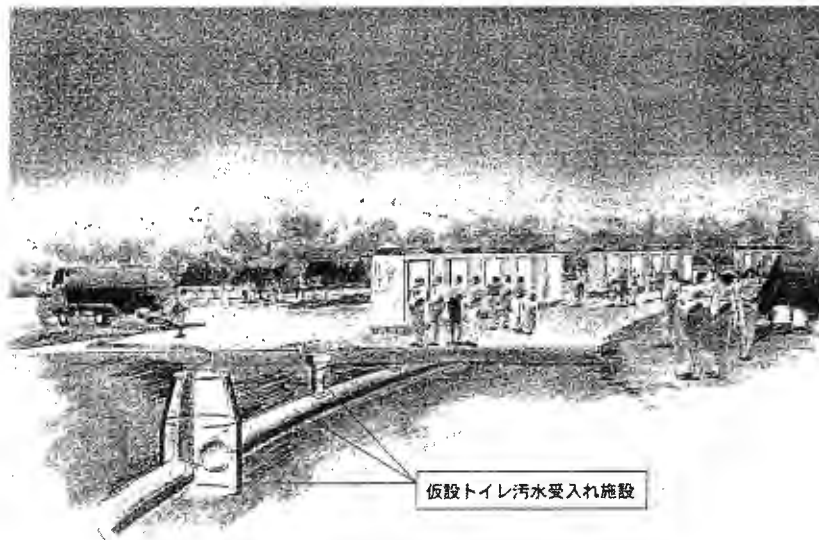
大阪市民として、大阪市の防災対策の中でトイレはどのように考えられているのかを知りたくて、2005年9月6日に大阪市役所の危機管理室を訪ね、お話を伺いました。

平成7年に発生した阪神淡路大震災で、避難場所のトイレや公衆トイレ、公園などに設置された仮設トイレが、汚物が流せないことにより、極めて不衛生な状態となり、ひどいところは使用不能の状態になりました。これを契機に、大阪市都市環境局では、広域避難場所に仮設トイレ汚水受入施設とそれらと公共下水道を結ぶ管を敷設する事業を平成7年度から実施しているとのことでした。

9月21日に鶴見緑地公園駐車場にある仮設トイレ設置予定場所に行き、実際に仮設トイレを組み立てていただきました。汚水枡は、2mピッチで30mから50m続いており、これだけの汚水枡に仮設トイレが設置されれば、充分満足できる数が立ち並び壮観でしょう。

同じ日に阿倍野の防災センターも見学しました。ここには、水が出ない水洗トイレの代わりに使用する緊急用ポータブルトイレがあり、各小学校や防災センターに備蓄されており、小学校で確認できるそうです。

大阪市の仮設トイレは、男性が工事現場で使用するものを流用しているため、まだ女性を意識したものではありません。身障者用の仮設トイレもなく、ましてや女性への配慮もなく、これから提案していくつもりです。



親子蓋設置姿図

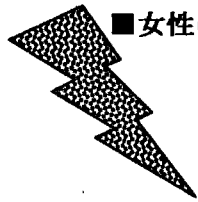
＜参考＞神戸市の災害時のトイレ機能の確保（神戸市のホームページから）

仮設水洗トイレ用の下水道管をあらかじめ敷設しておき、災害時には仮設トイレ用下水道管に設置されたマンホール上部に仮設トイレを組立・設置し、下水道に汚物を直接流します。これにより汲み取りの必要がなく、クリーンなトイレを保つことができます。ここは仮設トイレ5台のうち1台が身障者用になっていますが、女性に対する配慮は見当たりません。



＜参考＞東京都直下地震対策（テレビ放映による）

東京都も、下水道管を利用してマンホールの蓋を開け、便器を設置、テントを被せるという簡単な方法。組立に時間がかからず、即使用できるのがありがたい。ユニークなのは水源に井戸を使うことで、都内の井戸地図も作っている。



■女性の視点で災害時のトイレを考える

＜アンケート調査＞

4、女性のトイレ意識

■調査方法

・時期・2005年11月18日～2006年1月31日

・場所・ATC エイジレスセンター展示場

回答者の属性

・アンケート対象者・女性(大阪市ヘルスリーダーなど団体見学者や個人見学者)

・アンケート回答者数・139人

・年齢別回答者数

20～40歳代…7人・50歳代…18人・60歳代…93人・70歳代…21人

調査結果

1、どんな時にトイレを我慢しますか

「汚い」「怖い」は公衆トイレのイメージが大きく、女性の頭の中にインプットされているようだ。

「他人の目」「男の目」を意識するのは羞恥心からくるもので、つつしみ深い人ほど気にする。

2、男女別の仕切りや囲いについて

要らないは0人、仕切りは必ず欲しい。

3、待ち時間の限度について

高齢になるほど膀胱は小さくなり、括約筋もゆるむので、15分が限度だろう。15分ということは3人から5人待ち。

4、洋式便器と和式便器について

これは、どの年代においても半々です。

＜洋式便器がよい理由＞

・座れるので楽、座面はティッシュでカバー(20歳代)・腰・膝の悪い人が多い(50歳代)

・膝を痛めているので座る方が楽(40歳代)・和式便器は周り(足元)が汚い(50歳代)

・慣れているから、年老いたら腰、足が痛いから(50歳代)・腰が痛い(70歳) (50歳代)

・災害時の状況では、洋式には衛生面で抵抗があるが、高齢者、障害者を配慮し洋式にすべき

＜和式便器がよい理由＞

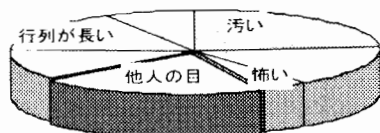
・洋式は排便時にリキムことができない・洋式の便座が汚れたら座れない・便座に座るのが苦手

・災害時の場合、腰かけるのに抵抗を感じる・普段使いなれている。

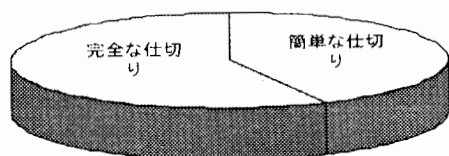
・膝に悪いけど、お尻をつけないので安心。洋式は便座が汚い

20～40歳代の意見

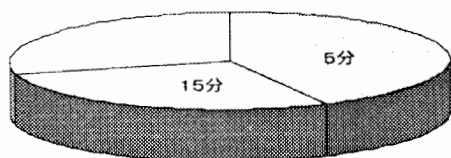
I、どんな時にトイレを我慢すると思いますか



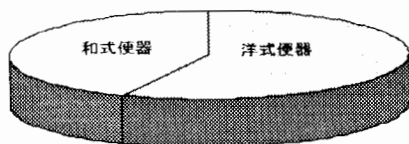
II、男女別の仕切りや囲いについて



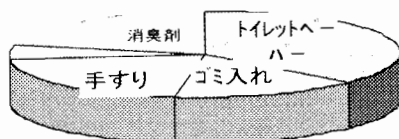
III、待ち時間の限度は



IV、洋式便器と和式便器について

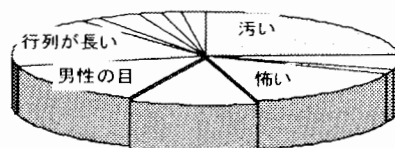


V、緊急時でトイレ内に必要なものは

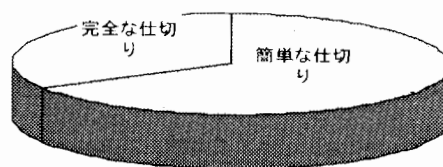


50歳代の意見

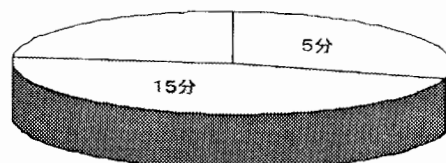
I、どんな時にトイレを我慢すると思いますか



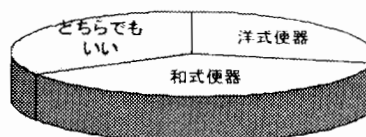
II、男女別の仕切りや囲いについて



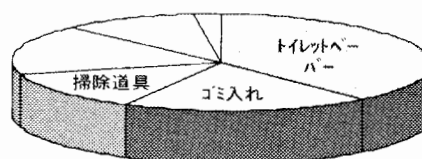
III、待ち時間の限度は



IV、洋式便器と和式便器について

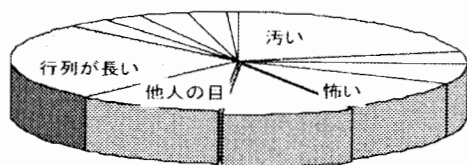


V、緊急時でトイレ内に必要なものは

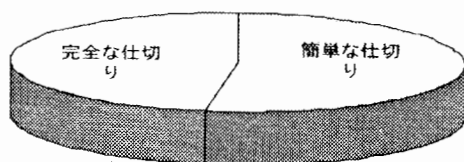


60歳代の意見

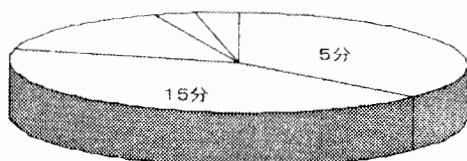
I、どんな時にトイレを我慢すると思いますか



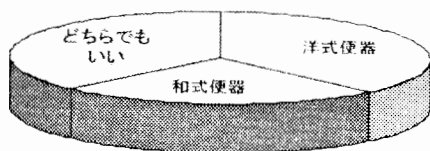
II、男女別の仕切りや囲いについて



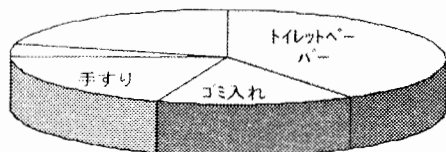
III、待ち時間の限度は



IV、洋式便器と和式便器について

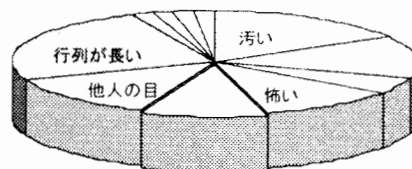


V、緊急時にトイレ内に必要なものは

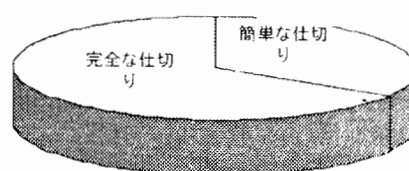


70歳代の意見

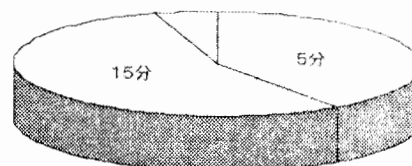
I、どんな時にトイレを我慢すると思いますか



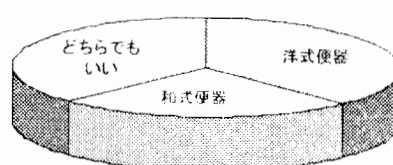
II、男女別の仕切りや囲いについて



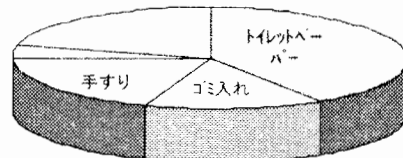
III、待ち時間の限度は



IV、洋式便器と和式便器について



V、緊急時にトイレ内に必要なものは

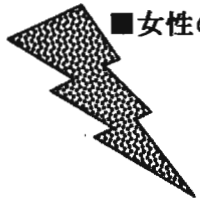




ATC エイジレスセンターのブースに緊急ポータブルトイレを置きアンケートをお願いした

・災害時の緊急トイレについてのご意見

- ・緊急時でも手は洗いたい（20歳代）
- ・水がなければウエットティッシュ。衛生面にはいつでも目を向けておいた方がよいと思います（30歳代）
- ・量がたくさん入るか心配（20歳代）
- ・消臭剤があってもそれ以上に臭いがキツイ（20歳代）
- ・用をたした時、跳ね返りがありそう（50歳代）
- ・外より屋内の方が雨の時には良い（50歳代）
- ・水がないので、周りを汚さないように気をつけたい（50歳代）
- ・待つのに限度があるし、大便でお腹が痛くてもらしてしまう（50歳代）
- ・便や尿をかため、袋につめて捨てる方がいい（50歳代）
- ・水で流すより、後で燃やす方がいい（50歳代）
- ・仕切りとトイレの数があればと思います（50歳代）
- ・大便の時匂いが気になる
- ・自分用オムツも必要
- ・簡単でよいから待ち時間の少ないような施設があればよい



■女性の視点で災害時のトイレを考える

＜調査研究結果から＞地方自治体や地域への提案

5、女性にとっての快適トイレ環境

・ヒヤリングやアンケート調査結果からみえた、女性が安心して使用できるトイレ環境を下記のとおり提案します。

1、仮設トイレの設置場所など

- ・校庭の隅など寂しい場所は避け、顔の判断はつかないが、それとなく人の気配がわかる場所に設置すること。
- ・夜間でも行きやすいように、周囲を照明で明るくすること。(使用者のシルエットが写らない配慮)
- ・仮設トイレの組み立てが、誰でも簡単に組み立てられるように、説明書も分かりやすくすること。(神戸では1台組み立てるのに丸1日かかったそう)
- ・機械に弱い一般の人が組み立てても頑丈に組み立てられるような構造であるか検査すること。(トイレに入っているだけでもグラグラして不安だった人が多かった)
- ・男女別に仕切りを設けること

2、仮設トイレについて

- ・洋式と和式を半々にすること
- ・和式便器を縦に置く場合、入り口側を頭にする
- ・鍵を必ずつけること(入っているかどうか分からなくて、ドアを開けられた人も多く、和式の場合、ドアにお尻を向けるよう便器が設置されているので不安が重なったそうです)
- ・便器を設置しない「着替え室」も設けること
- ・荷物置き棚を必ず設けること(できれば子供をのせて下着を脱着させるスペースにも使用できる)
- ・ゴミ入れ(生理用品や汚れた新聞紙など)を設けること
- ・備品棚を設けること(トイレトーパー・新聞紙など)
- ・手すりを設ける(使用者の頭位置)便槽の大きさにより扉の位置が高い場合は扉の横につけること
- ・簡単な掃除道具と水用バケツを設けること

4ページから掲出の「高齢者の身体・心理特性」も参考に、今後の仮設トイレの設計や設置時にご考慮いただければ幸いです。

6、資料女性トイレ意識調査の調査票

災害時の緊急トイレについてお答えください。

- I どんな時にトイレを我慢すると思いますか、考えられることすべてに○をつけ、気がついたことがありましたら、その他にお書きください。
1、汚い 2、寒い 3、不安 4、怖い 5、他人の目 6、男性の目
7、行列が長い 8、下着の脱着に時間がかかる 9、屈むことが出来ない
10、立ち上がるのが苦痛 11、衣服が尿や便で汚れている 12、疲れている
13、その他（
- II 男女別の仕切りや囲いについて（該当する項目に○）
1、なくてもよい 2、簡単な仕切りでもある方がよい 3、完全な仕切りが必要
- III 待ち時間の限度は（該当する項目に○）
1、 5分 2、 15分 3、 30分 4、 1時間 5、2時間
- IV 洋式便器と和式便器について（該当する項目に○をつけ理由をお書きください）
1、洋式便器がよい（理由
2、和式便器がよい（理由
3、どちらでもよい
- V 緊急時でもトイレ内に必要なものは（該当する項目に○）
1、トイレットペーパー 2、ゴミ入れ 3、手すり 4、掃除道具
5、消臭剤 6、その他（
- VI その他、災害時の緊急トイレについて気がついたことがありましたらお書きください。
- VII ATCエイジレスセンターのCゾーンに、〇市の緊急トイレが置いてあります。
ご覧になって、感想やご希望をお聞かせください

最後に年齢と性別をご記入ください
ご協力ありがとうございました。

年齢 _____ 才 性別 男 女



女性の視点で災害時のトイレを考える

特定非営利活動法人 ふくてつく

福祉用具部・編集委員

杉浦史郎・三浦久子・鈴木善正

清水麗子・古場道夫

〒559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10ATC-ITM 1 1 階

TEL/FAX 06-6614-6800